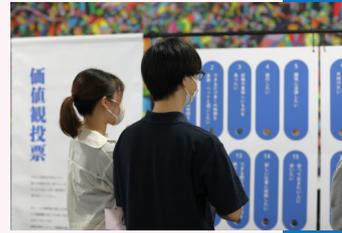


寿命が 今日 決まったら 展

「寿命が今日決まったら展」とは

展示内のガチャマシーンで「仮の寿命」を決めることで、普段は意識しない「人生の残り時間」について考え、身近な人と価値観を共有するきっかけとする体験型展示です。

仮の寿命が決まったら、「できるだけ多くの時間を家族・ペットと一緒に過ごしたい」「社会の役に立つ活動をしたい」といった選択肢の中から、自分が最期まで大切にしたい価値観を3つ選びます。普段は意外と共有することのない、自分の「価値観」について考え、身近な人と対話するきっかけとなります。



なぜ価値観の共有が大切なの？

必ずやってくる「もしも」のときに意思決定する人は？

人生の集大成とも言える「最期」。「人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、家族や医療・ケアチームなどと繰り返し話し合い、共有する取り組み」のことを、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）、別名「人生会議」と言います。人生の最期は誰にでも訪れるものですが、どんな状況で迎えることになるかを完全に予測しておくことはできません。自分自身で意思決定ができなくなったとき、誰に意思決定を代理してもらおうか？自分の望む最期の過ごし方とは？今はまだ「人生の最期」

にピンとこない人も、普段は考える機会がなかなかないテーマについて、体験を通して考えてみませんか？

「手段」よりも重視される「目的」「価値観」の共有

どのような医療・ケアを受けたいか、人生の最終段階に本人の意思を反映させることは、本人の尊厳を守り、本人や周囲の人が「最期まで自分らしい人生を送った」と納得するために重要なポイントです。ACPのような終末期の話し合いを行った人は、行わなかった人に比べて死を受け入れられており、積極的な終末期医療が行われなかったという研究結果があります。積極的な治療を行えば行うほど、家族など介護者から見た患者の生活の質（QOL）は低下。介護者のQOLも低下し、後悔の念を持ったりうつ病になるリスクが高まりました。ACPにおいて最も重要なのは、「呼吸が止まっても人工呼吸器は使わない」「食事が摂れなくなっても胃瘻はつくらない」といった手段を決めておくことではなく、「繰り返し話し合い、共有する」というプロセスです。具体的な手段を示す事前指示は一見明確ですが、状況によって実施されないこともあり、本人の意思を終末期医療に反映し、苦痛を軽減したり、本人や家族の満足度を上げたりする効果はなかったという研究結果があります。そこで、手段よりも本人の価値観や目的を重視するACPが有効だと考えられるようになってきました。手段に落とし込むことは必要ですが、そこに至るまでの本人の思いや価値観を共有しておくことで、本当の意味で意思を反映しやすくなります。

●携帯電話・カメラでの写真・動画の撮影OK

#寿命が今日決まったら展



身近な人との対話のきっかけとするための体験型展示です。ぜひご自身の価値観や感じたことをシェアしてください。

撮影に関するお願い●他の方のご迷惑にならないようご配慮ください。／三脚、セルフスティック、フラッシュのご使用はご遠慮ください。／写真や動画の公開にあたっては写り込んだ方の肖像権に触れる場合がありますので、他の方が写っている動画はSNSなどで公開しないようご注意ください。

エンディングゲーム

ゲーム内のキャラクターになりきって人生の最終段階を体験するボードゲーム

ゼツミョーション

特定のシーンにおける人物の感情を考えるカードゲーム

omniheal について

株式会社オムニヒールは、「テクノロジーとクリエイティブで、みんなを癒す」をテーマとする会社です。私たちはテクノロジーとクリエイティブの力で、医療・介護にまつわる社会課題の解決策を実装します。医療やヘルスケア領域であっても「健康」「医療」だけを至上とせず、人がワクワクする心や利便性の向上など「人生を豊かにする」視点を忘れない新たな解決策を大切にしています。自治体・地域イベント、学校教育、社内研修などにも対応可能。ご要望があればご相談ください。